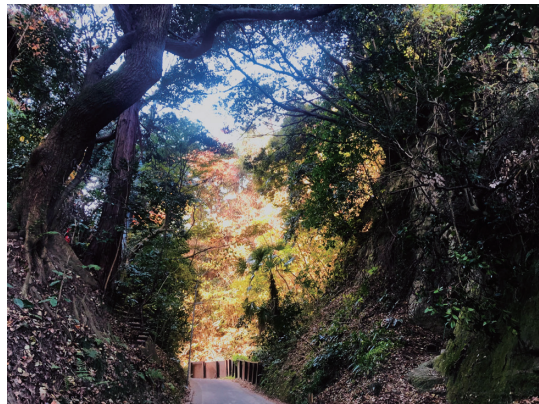


はじめ

鎌倉には、 切り通し という物流・防衛のために幕府によって建設された古道がある。

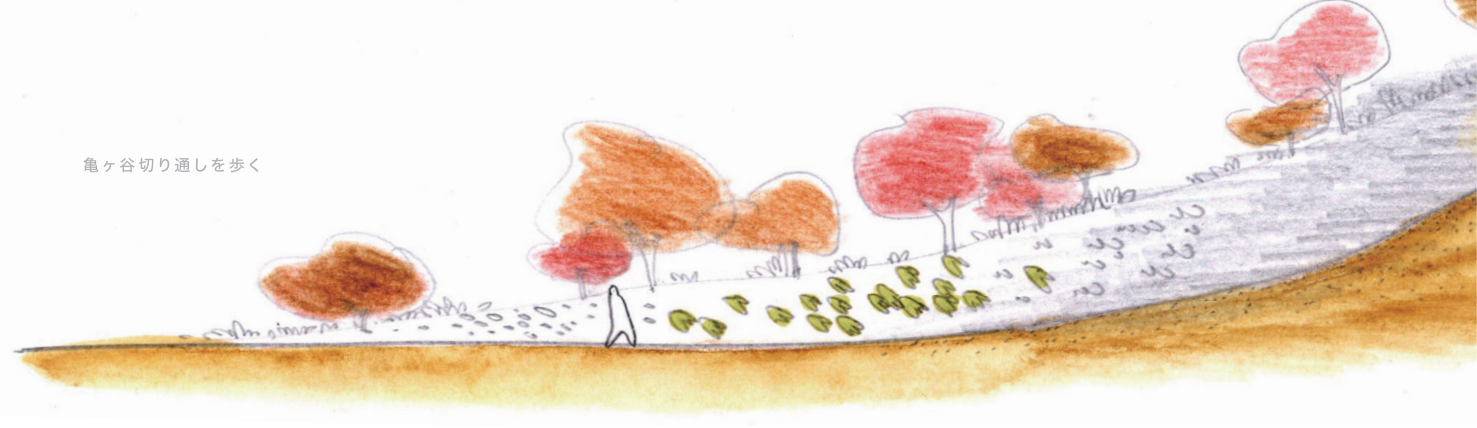
かつての目的を失ったその空間に一步足を踏み入れると、複雑な地形を利用し、受け入れることで創られてきた鎌倉という街の源流であるような特別な風景に出会った。



-人と自然のおりあい

三浦半島の付け根に位置する鎌倉は、谷戸と呼ばれる入り組んだ山と要塞として利用し、この地に根付いた。

人々は、周囲の山々や崖、海に対して、少しずつ手を加え、そうしてできたその痕跡は、長い時間とともに積み重なり、今の鎌倉の街並みや文化



やぐら。岩を掘って作られたお墓。



和賀江島。石を集めて作った人工島。



谷におさまって密集する住宅たち。



山のひだにひっそり佇む寺。

谷の地形が街をぐるりと囲うようなかたちをしている。平地が少なく、周囲と切り離された環境に目をつけた鎌倉幕府は、地形をそのまま

た環境の中に取り込まれるようにして生きながらえてきた。

となって、街の歴史を物語っている。





お寺へと続くみどりのトンネルには風が抜ける



住宅が立ち並ぶ奥地にひっそりと佇む神社



境内の奥行きを切りとる門



谷戸のひだにかくれる風景



庭があふれて連続する小道



大きな自然と小さな人間



山の奥の住宅に通じる小さなトンネル。

-奥行きをもつ街の経験

横須賀線の開通に伴って、街に移住して来る

人々が増加し、谷に沿って立ち並ぶ住宅はそ

の領域をどんどん広げていった。

大規模な山の開発を阻止する住民の活動に

よって、山は本来の入り組んだかたちを維持

しながら、奥へ奥へと谷筋をのばしていった。

大通りから伸びる脇道に入っていくと、静か

で、歩くたびに風景が少しずつ変わっていくよ

うな経験があった。

奥へと引き込まれるようにして進んでいくと、

道は枝分かれしながらだんだんと窄まって、

そのほとんどが行き止まりを持っていること

がわかった。

-地理的要因による暮らしと観光の分断

平日でも観光にやってくる多くの

人々で賑わう街の中心部から一

歩外に出ると、山に囲まれた静

かで落ち着いた暮らしの領域が

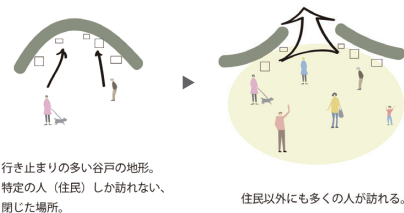
広がっている。

しかし、山がつくる行き止まりに

よって、住民と観光客は近い距

離にありながらもお互いの存在

を日常的に感じられない。



-地形による行き止まりを乗り越える空間の手がかりとして、切り通しに着目する。



地面を掘った、
奥行きを持つ穴
のような空間に
引き込まれる。

自然要塞の中に築かれた鎌倉は、街が栄えていくに

連れて外から物資を運んでくる必要となった。

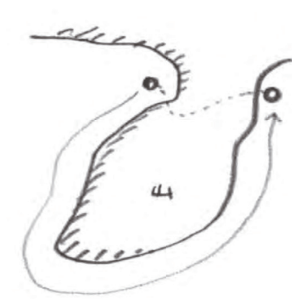
そこで、周囲をかこう山を通り抜けるために、切り通

しを作った。

山を短い距離で切り開き、離れた街とのつながりを

生み出した切り通しは、そこから攻め込んでくる敵を

撃ち殺す役割も持ち、街の構造を大きく変えた。



離れたところへワープすることによって、
街との出会い方・体験が変化する。

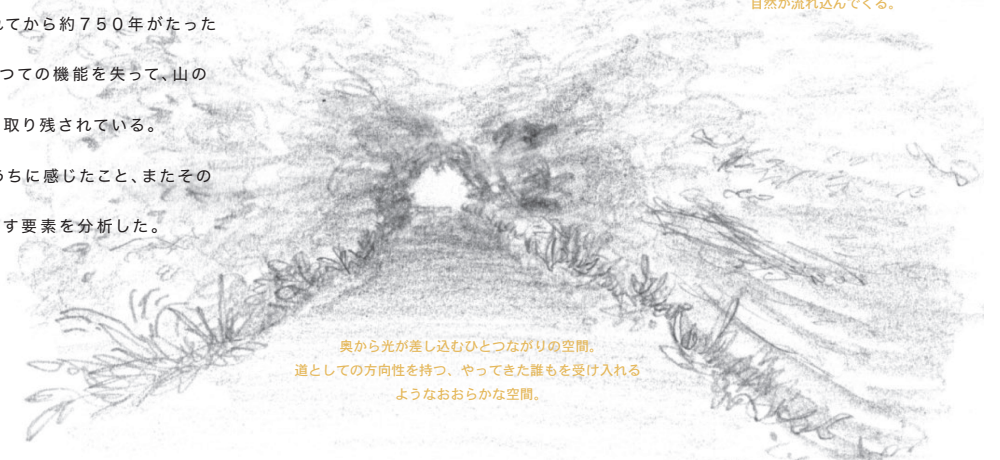
はじめに作られてから約750年がたった

切り通しは、かつての機能を失って、山の

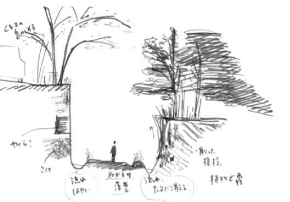
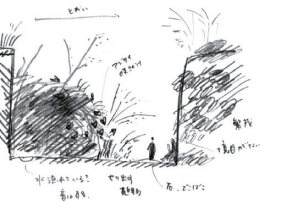
中にぽっかりと取り残されている。

何度も訪れるうちに感じたこと、またその

魅力をつくりだす要素を分析した。



奥から光が差し込むひとつながりの空間。
道としての方向性を持つ、やってきた誰もを受け入れる
ようなおおらかな空間。



掘ったところには、時間が経つにつれて
自然が流れ込んでくる。



-山を超えた繋がりをつくる



目的（通り抜け）と行為が重なる

空間には、地理的分断を超えて、

多くの人が流れてゆく。

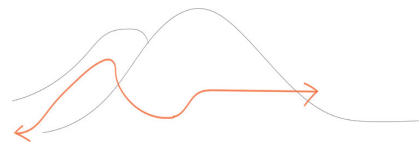
流れは緩くて大きなコミュニティ

となり、暮らしと観光をつなぐ、日

常的な公共空間になる。

切り通しでの空間体験を
元に、地形との関係によっ
て生まれる建築のかたち
を考える。

-ダイアグラム



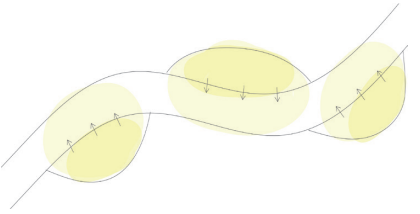
山に沿わせることで周辺と切り離さ
れた空間としながらも、地面と水平
に掘り込むことで、一方的に風景を
取り込む。



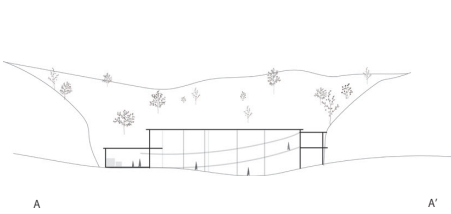
山の高低差を乗り越えるスロープ
やスキップフロアで、ひとつなが
りの空間をつくる。風や気配が流
れる。



建築の埋め込み方（山肌との距離）
によって様々な質の空間をつくる。

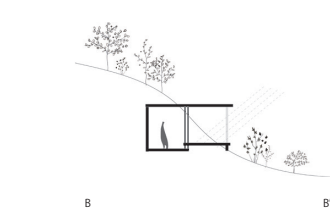


道に沿って機能を配置する。道に
活動が溢れてくる。



hall - section 1 : 900

谷の地形をそのまま利用した広場。
山に囲まれて暮らす人々や観光にやってきた人々が集まること。



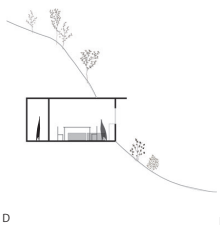
gallery - section 1 : 400

山を深く掘り込んだところ。奥に行くほど暗く、落ち着いた空間。



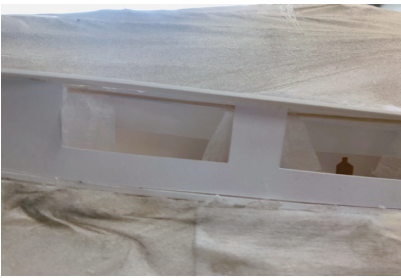
view - section 1 : 400

山の一番高いところから街を見下ろす。山の下の方から風が吹き
上げてくる。



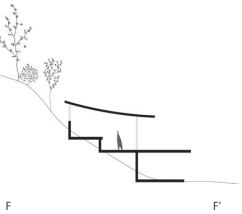
acomodation - section 1 : 400

山肌に埋め込まれたボリューム。道は、完全に山の中に潜り込む。



library - section 1 : 400

急な斜面のところ。
地面と平行に掘り込んだ洞窟のような空間に包み込まれる。



cafe - section 1 : 400

山の窪んだところ。つづら折りのスロープでゆっくりと山を登っていく。



戦争の遺物である切り通しを、単に街の歴史の象徴としてそこに残しておくだけでなく、

それが現代にとってどんな意味を持ちうるか、どんな空間として表れるのかを再定義することは、

新たな人の繋がりや暮らしのかたちをつくり、これまでの歴史に新たな意味を見出す。

